

表彰状

優秀演題

急性期病院における専門看護師による

倫理調整の実践知の探究

東京女子医科大学附属八千代医療センター看護部

山内 典子 殿

貴殿は第10回日本CNS看護学会の一般演題において優秀な発表を行い本会の進歩と向上に寄与されました
ここにその栄誉を称え日本CNS看護学会優秀演題として、表彰いたします

令和5年6月11日

第10回日本CNS看護学会

大会長 武用 百子



急性期病院における専門看護師による倫理調整の実践知の探究

◆演者

山内 典子^{<1>}、塚田 亜矢子^{<1>}、渡邊 直美^{<2>}、近藤 直子^{<1>}、内田 邦子^{<2>}、三村 千弦^{<2>}、池田 真理^{<3>}
<1>東京女子医科大学附属八千代医療センター看護部、<2>東京女子医科大学病院看護部、
<3>東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻家族看護学分野

◆背景・目的

倫理調整の実践について詳細に述べた報告は少なく、研究者らも実践に含まれる意味にまで深く省察することはなかった。そこで、急性期病院の専門看護師の倫理調整における実践知を明らかにしたいと考えた。

◆方法

研究者らが関わった6事例について、山本らによる事例研究法を用い、患者・家族の状況やアセスメント、実践の意図、変化を記述し、共同研究者同士の対話により想起されたことを追記した。この際、事例研究法に詳しい教員を含むことで妥当性を確保した。事例の展開の「看護実践の重要な転機(潮目)」に注目して時期区分を分け「意図・意味(大見出し)」「コツ(小見出し)」「具体的実践行為」から構成される表を作成し、看護実践を概念化した。さらに、倫理調整に6事例に特徴的な実践知について類型化してテーマ名をつけ、データの内容を解釈した。

◆倫理的配慮

所属大学の研究倫理審査委員会の承認を得て実施した(承認番号:2021-0031)。

◆結果

専門看護師は【患者の意思を聴き、大事にし続ける】【患者の益を脅かす状況に直面し違和感を抱く】ことを起点に倫理調整を始めていた。さらに【それぞれの立場からみえる状況を整理し、倫理に関わる課題を見きわめる】こと、【それぞれの価値のずれを見抜き、患者の意向と皆に共有可能な接点を見いだす】ことを行い、【関係者が同じ方向に進むための求心力となって協働関係を加速させる】実践につなげていた。また、ベッドサイドで【ケアを通して患者、家族の望みの実現へと応答し続ける】実践をしていた。そして、患者や家族の望みが実現した後にも【支援後の患者および関係者の反応を捉え、今後の事例につなげる】ことを試みていた。

◆考察

倫理調整にあたり、生じる痛みや悩みを調整の契機として認識すること、対話を促進し不調和にある価値のずれをみて全体の納得を導くこと、日常ケアを通してその都度の願いに応答しともに実現させることの重要性が示唆された。